

付託議案

(審査終了ノモノヲ除ク)

昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第六十七回帝國議會 衆議院 昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外一件委員會會議錄(速記)第十九回

昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(政府提出)
臨時利得稅法案(政府提出)
日本銀行納付金法中改正法律案(政府提出)

會議

昭和十年三月十一日(月曜日)午後一時二十
六分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 岡田 忠彥君

理事松村 光三君 理事上田 孝吉君

理事岡田喜久治君 理事中村 繼男君

田邊 七六君

山田 又司君

大口 喜六君

鷺野米太郎君

大山斐瑳磨君

森田 福市君

金光 庸夫君

廣瀬 爲久君

小笠原三九郎君

太田 正孝君

玉置吉之丞君

森 昇三郎君

綾部健太郎君

田中 貢君

前田房之助君

矢野庄太郎君

栗原彦三郎君

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣

出席政府委員左ノ如シ

內務省地方局長

小川郷太郎君

中島彌國次君

龜井貫一郎君

高橋 是清君

岡田 周造君

大藏參與官 豐田 收君

大藏省主計局長 賀屋 興宣君

大藏省主稅局長 石渡莊太郎君

大藏省理財局長 青木 一男君

大藏省銀行局長 荒井誠一郎君

大藏書記官 廣瀬 豐作君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(政府提出)

臨時利得稅法案(政府提出)

日本銀行納付金法中改正法律案(政府提出)

○岡田委員長 是ヨリ開會ヲ致シマス、今日此委員會ニ付議シマスモノハ、御承知ノ如クニ昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、昭和七年法律第一號中改正法律案、臨時利得稅法案、日本銀行納付金法中改正法律案、此四件デアリマス、今日ハ討論ニ入ル順序デアリマスガ、慣例ニ依リ簡單ナ質問ヲ此際許シマス——小笠原君

○小笠原委員 私ハ一二極ク簡單ナル追加質問ヲ致シタイト存ジマス、其第一ハ臨時利得稅法案ノ法人合併ノ場合ニ付テマアリマス、本法案ノ第七條ニ依リマス、法人合併ノ場合ニハ其既往事業年度ノ平均資本金額及平均利益ハ命令ノ定ムル所ニ依ッテ之ヲ計算スルコト、ナッテ居リ、サウシテ過日御示シニナリマシタ所ノ命令要綱ノ第二ヲ見マスルト、法人合併ヲ爲シタル場合ニ

於ケル臨時利得稅法第七條ノ平均資本金額及平均利益ノ計算ハ、(一)合併後存續スル法人ニ付テハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ既往事業年度ノ資本金額及利益ヲ算入セズ、(二)合併ニ因リテ設立シタル法人ニ付テハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ既往事業年度ノ資本金額及利益ヲ其ノ資本金額及利益ニ算入シテ計算スルコト」トナッテ居ルノデアリマスガ、申スマデモナク所謂吸收合併ト新設合併トハ、單ニ商法上ノ手續ノ相違タケデアリマシテ、其權利義務ノ繼承ノ關係トカ、或ハ營業狀態ノ存續、サウ云フ點ニ付テ見マスルト、何ノ區分モナイノデアリマスカラ、是ハ兩者ト同一ニ取扱ハレテ、合併前ノ法人ノ既往事業年度ノ資本金額及利益ヲ算入計算セラル、コトガ當然ダト思ヒマスガ、之ニ對スル政府ノ御所見ハ如何デアリマセウカ

○石渡政府委員 小笠原サンノ御尋ニナリマスルコトハ、理論上ト致シマシテ洵ニ御尤ダト思フノデアリマスガ、此點ガ果シテ實際上如何相成リマスルカ、實ハ戰時利得稅法ノ施行ノ時ニ當リマシテハ、只今勅令案ニ御示シシタヤウナ扱ヲ致シタルデアリマス、今回ハ之ニ法律的ノ根據ヲ置キタイト存ジマシテ、法律ニ規定ヲ設ケテ、勅令

ニ讓テサウ云フ命令ヲ決メタイト思ッタノデアリマス、只今ノ御趣旨ニ依リマシテ、政府ト致シマシテハモウ一應篤ト考慮致シテ見マス、若シ御趣旨ノヤウニ致シマシタ方ガ、納稅者ニ於キマシテモ相當有利ノ計算ニ相成ルト云フ場合ガ多イト致シマスレバ、或ハ御説ノヤウニ取計ヒタイトモ思ッテ居リマス、モウ一應熟考致シテ見タイト思ヒマス

○小笠原委員 其點ニ對スル答辯ハ政府ノ意ノ在ル所ヲ諒ト致シマス

○岡田委員長 小笠原君、內務省ノ地方局長ガ見エマシタ

○小笠原委員 ソレデハ第二ニ地方附加稅ノ問題ニ付テ一寸御尋申上ゲマス、臨時利得稅ノ附加稅ヲ許容スベカラザルモノデアルト云フコトハ、本稅ノ性質上當然デアリマスケレドモ、本利得稅ガ損失トシテ所得額及營業收益額ヨリ控除致シマスル結果ト致シマシテ、地方自治體ニ於テハ、之ニ伴フ附加稅ノ減收ヲ來スコトニナルノデアリマス、私ノ調べタ所ニ依リマスルト、全國ヲ通ジマシテ約三百二十萬圓ノ附加稅ノ減收ヲ來スコトニナルノデアリマスガ、地方自治體財政難ノ折柄、是ハ影響ガ中々少クナイコト、考ヘルノデアリマス、之ニ付キ

マシテハ大藏當局並ニ內務當局ハ、斯ウ云フヤウナ事實ニ付テ御考慮ニナッタコトガアルカドウカ、又御考慮ニナッタトスレバ一應緩和策トカ、或ハ救濟策ト云フヤウナモノヲ御考ニナッテ居ルカドウカ、此二點ヲ御伺致シタイト思フ

○岡田政府委員 御答致シマス、臨時利得稅ノ實施ニ依リマシテ、地方稅ノ影響ヲ受ケマスルモノハ、御話ノ如ク所得稅ノ附加稅ト營業收益稅ノ附加稅トデゴザイマスガ、御話ノ如ク營業所得或ハ所得ノ損失ニ立チマスル結果、ソレダケ減收ニナル譯デアリマシテ、其點ハ地方財政ノ上カラ見マシテ苦痛トスル所デアリマスルガ、是等ノ減收ヲ來シマスルヤウナ團體ハ、大部分ハ六大都市デアルトカ、或ハ六大都市ノ所在地デアル府縣デアルトカ云フヤウナ地方デアリマシテ、是等ノ地方ニ於キマシテハ、最近經濟界モ幾分好轉致シマシテ、或ハ此臨時利得稅法ヲ施行スルト云フヤウナ關係ニモナリマスルヤウナ所デアリマシテ、近來ハ稅收入ニ於キマシテモ所得稅附加稅、營業收益稅附加稅等ガ、従前ニ比シテ多少ノ增收ヲ見ルヤウナ狀況ニナッテ居ルノデアリマス、デアリマスルカラ、減收其モノハ地方財政ノ上カラ申シマスレバ苦痛ト致

シテ居ルノデアリマススケレドモ、從來ノ
收入方減少スルト云フノトハ違ヒマシテ、
增收ニナルベキ分ガ幾ラカ減收ニナルト云
フヤウナ狀況ト考ヘマスルノデ、サシタル
支障ハナイト考ヘテ居リマス、隨ヒマシテ
之ニ對スル救済策緩和策ニ付キマシテモ、
特段ニ現在ノ所考慮シテ居リマセヌノデア
リマス

○石渡政府委員 大體只今地方局長カラ御
答ニナツト同ジヤウニ考ヘテ居リマス

○小笠原委員 之ヲ東京市ノ例デ考ヘテ
見マシテモ、東京市ノ如キ財政難ヲ感じ
テ居ル所ニ、私ノ計算デハ約六十萬圓位ノ
減收ヲ來スコトニナルノデアリマス、自然
增收ト云フコトハ、是ハ當然又自治體ノ方
デモ自然增收ヲ見込シ居ル次第デアリマ
スカラ、是等ニ付テハ一應今ノ説明ヲ諒ト
致シマススケレドモ、相當善處策ヲ御樹テニ
ナランコトヲ特ニ熱望致シテ置キマス、次
ニ御伺申上ゲタイノハ昭和五六年ガ課税ノ
基準年度ニナツテ居リマスルガ、御承知ノ如
ク昭和五六年ト云フモノハ、所謂濱口内閣
ニ依ッテ極端ナル「デフレーション」政策ヲ
執ラレタ結果ト致シマシテ、賃銀等ノ引下
ガ各所ニ行ハレテ、隨分ソレガ爲ニ同盟罷
業其他ノコトガ頻發シテ居ルノデアリマ

ス、ソコデ此稅率ヲ査定スルニ當リマシ
テ、斯ウ云ツタ同盟罷業期間中ノ作業シテ
居ナイ其分モ、利益率ヲ計算サル、場合ニ
於テハ、其期間ヲ控除シテ、作業シテ居ル
ダケノ期間ノ利益率デ算定セラレルト云フ
コトデナイト公平ヲ得難イト考ヘルノデア
リマス、或ハ此事ハ法文ニ入レマシタ方ガ
ドウカト思ハレマススケレドモ、併シソレハ
非常ナ煩瑣ヲ強ユルコトニナリマスノデ差
控ヘテアルノデアリマスガ、政府ニ於テモ
能ク斯ウ云フ事實ヲ認メテ、本稅査定ノ場
合ニハ十分其邊ニ手心ヲ加ヘラレンコトヲ
希望致ス者デアリマスガ、之ニ對シテ政府
ノ御所見ハ如何デアリマスカ

○石渡政府委員 同盟罷業其他ニ依リマシ
テ、昭和五六年當時ノ利益率ガ、ソレヲ
原因トシテ殊ニ低カッタモノニ付テ之ヲ何
トカ考ヘタラドウカト云フ御尋デゴザイマ
ス、是ハ其當時ノ利益ノ低カッタト云フ點
ニ付キマシテハ、色々様々ナ原因ガアラウ
ト思フノデゴザイマスガ、只今御尋ノ同盟
罷業ト云フヤウナ爲ニ利益ノ減ッタト云フ
ヤウナモノハ、相當同情スベキモノト思フ
ノデゴザイマシテ、實際上法規ノ許ス範圍
内ニ於キマシテ、出來得ル限り同情ヲ有ッ
テ取扱ヒタイト考ヘテ居リマス

○小笠原委員 其御説明ヲ諒ト致シマシ
テ、私ノ質問ハ之ヲ以テ終リト致シマス
○岡田委員長 他ニ御質問ノ方ハゴザイマ
セヌカ——是ヨリ討論ニ移ル前ニ一言政府
ニ申シテ置キマス、内務省關係ニナル譯デ
アリマスガ、材料ノ提出ガ甚ダ不十分デス、
殊ニ災害ノ基準トナルベキ統計、災害豫算
ノ基準トナルベキ統計、之ヲ度々求メテ居
リマススケレドモ、十分ナ材料モ提出サレズ、
又御答辯モ殆ドナイヤウナ有様デアリマ
ス、是ハ非常ニ遺憾デアルト云フコトヲ茲
ニ委員長ヨリ申シテ置キマス、是ヨリ討論
ニ入りマス——松村君

○松村委員 私ハ先づ本案ノ缺陷ヲ簡單ニ
指摘致シ、次デ我黨ヲ代表シテ是ガ修正ノ
動議ヲ提出セントスル者デアリマス、其缺
點ノ第一ハ、本案提出ノ趣旨目的甚ダ不明
瞭、且ツ不徹底デアル、而シテ租稅制度殊ニ
所得稅體系ノ本質ヲ紊ルコトハ、財政上許
スベカラザル所デアアル、又超過所得稅トノ
重複、法人相互間ノ配當課稅ノ重複アルノ
ミナラズ、個人ノ營業收益ニ關スル課稅技
術上ニ付テモ尙ホ難點ガアル、第二ハ負擔
公平ノ原則ニ悖リ法人各業種間ニ著シキ負
擔ノ不均衡トナリ、殊ニ發展ノ途上ニアル
新興ノ産業ニ對スル重稅ハ、其運用ヲ誤ル

時ニ動モスレバ是等産業ノ振展ヲ阻害スル
虞モアル、曩ニ我黨ガ産業立國五箇年計畫
ノ大旗ヲ樹立シ、爾來舊産業ハ勿論所謂新
興産業モ顯著ナル發達ヲ爲シタコトハ洵ニ
世界ノ脅威デアアル、我ガ貿易今日ノ盛運ハ
固ヨリ爲替安ノ恩惠ニ基クモノデハアル
ガ、而モ是等新興産業ノ海外進出ニ原因スル
ノ多大ナルコトハ言フヲ俟タズ、然ルニ軍
需景氣、爲替景氣ト云フ漫然タル名ノ下ニ、
不均衡ナル重稅ヲ課スルコトハ、我黨多
年ノ産業國策ヨリ觀テ十分ナル檢討ヲ必
要トスル所デアアル、第三ハ本稅ノ使途ニ付
テ大イナル疑問、否寧ロ大イナル反對ヲ唱
ヘネバナライ、現内閣ガ政治上、社會上
ノ見地カラ、跛行ノ景氣ヲ構成セントスル
ノデアルナラバ、之ヲ適當ナル目的稅タラ
シメルコトハ、理ノ當然デアアル、即チ其間
接ノ被害者デアアル農村其他ノ救済ニ之ヲ充
ツベキハ、必須ノ要件デアアル、然ルニ其總
テヲ舉ゲテ、軍事備軍豫算ノ不足ニ充テ
ル、所謂空廻リ、鹽廻シノ財政デアアル、是
ガ爲ニ農村其他ニ聊カニテモ不平不滿ノ聲
ヲ生ゼシムルガ如キコトアラバ、爲政者ハ
特ニ注意セネバナラス、曩ニ米國ガ産業復
興法ノ實施ニ當ッテ、農村ト工業トノ時局ノ
影響ノ程度ヲ、特ニ指數ノ比率ヲ基準トシ

テ、農村救済ノ對策ヲ樹テタルガ如キハ、

他山ノ石トシテ特ニ考究ノ値ガアル、現内閣ガ地方財政窮乏ノ因テ來ル原因ヲ深ク究メズ、殊ニ今回ノ臨時利得稅ニ依ッテ、其實施ノ結果、先程我黨ノ小笠原君ト政府委員ノ問ニ問答ノ結果明ナル如ク、地方附加稅ニ於テ、三百數十萬圓ノ減收ヲ來スガ如キ事實モアリ、是等ノ事實モ顧ミズ、政府ハ彌縫策ヲ以テ、一時ヲ糊塗セントスルガ如キハ、吾々ノ斷ジテ承服セザル所デアリマス、現内閣ハ速ニ地方財政補整ノ途ヲ講ゼラレンコトヲ此際敢テ強調スル所以デアリマス、以上ノ如キ根本上ノ缺陷ヲ是正セリガ爲ニ、我黨ハ政府原案ニ對シテ、茲ニ六ツノ修正條項ト、更ニ重要ナル一ツノ附帶決議ヲ動議トシテ提出セントスルモノデアリマス

修正條項

修正第一、政府原案第四條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

本法施行後資本金額ニ増加ブリタル場合ニ於テ其ノ資本増加ガ臨時利得稅通脫ノ目的ニ出デタルモノト認メラルルトキハ前項第三號ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ増加シタル資本金額ニ付前項第二號ノ規定ヲ準用シ其ノ平均利益ヲ

計算ス

修正第二、第四條第三項中「昭和六年十二月三十一日以前二年内ニ」トアルヲ「昭和六年十二月三十一日以前三年内ニ」ト修正ス

修正第三、第六條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

昭和七年一月一日以後本法施行ニ至ル迄ノ間ニ資本金額ヲ減少シタル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ第四條第二項第三號ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ減資前ノ資本金額ニ依リ之ヲ計算ス

修正第四、第九條第一項及第四項中「昭和六年以前二年」トアルヲ「昭和六年以前三年」ト修正ス

修正第五、第十四條ヲ左ノ如ク修正ス
第十四條 臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

一 法人ノ利得 利得金額百分ノ十
二 個人ノ利得 利得金額百分ノ七・五
修正第六、附則第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

本法ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ昭和十二年十二月三十一日ヲ含ム事業年度分限り、個人ニ付テハ昭和十二年分限リトス

附帶決議

政府ハ本法ノ施行ニ當リ、産業ノ振展ヲ阻害セザルコトニ留意スルト共ニ、速ニ窮迫セル地方財政補整ノ途ヲ講ズベシ

右決議ス

附帶決議ニ付キマシテハ、既ニ前ニ簡單ニ其理由ヲ説明致シタル故ニ、之ヲ繰返スノ必要ハナイト思ヒマス、仍テ私ハ本案ノ修正條項ニ付キ、是カラ其理由ヲ説明致サウト思ヒマス

修正理由ノ第一、修正條項ノ第二ニ當ッテ居リマス原案ハ昭和五六年ヲ基準ト致シマスガ、其當時ノ世界的不況ハ、所謂定期的不景氣循環ノ外ニ、産業機構ノ大變革ガ重ナッテ起タノデアル、是ハ昭和四年ノ春ニ始リ、秋ノ米國ノ株式大恐慌カラ、延テ全世界ニ波及シタルデアル、殊ニ我國ニ於テハ、昭和四年七月濱口内閣ノ金解禁聲明ニ依ッテ、直ニ金融產業界ノ不振ヲ惹起シタルモノデアルカラ、少クトモ昭和四年ノ後半ヲ加フルコトハ理ノ當然デアル、唯半期計算ガ課稅ノ技術上不便ナルカラシテ、勢ヒ昭和四年全部ヲ加ヘテ、昭和四、五、六ノ三年ヲ基準ト爲スベキモノト思フ、現ニ國際聯盟及ビ我國多數ノ統計ガ昭和三年、即チ千九百二十八年ヲ基準トシテ統計ヲ取

ルガ如キハ其理由ニ外ナラヌ、態々恐慌ノドン底タル昭和五、六年ヲ強テ採用スルコトハ不合理ナルノミナラズ、甚ダ過酷ナル課稅ト言ハナケレバナラス、況ヤ之ヲ各國ノ戰時利得稅ニ徵スルモ、平均二年主義ヲ採用セルハ僅ニ二三ノ國ニ過ギナイ、亞米利加、佛蘭西、丁抹ハ三年平均ヲ採リ、英吉利ハ三年ノ中納稅者ノ自由ニ二箇年選擇ヲ許シテ居ル、獨逸、奧太利ハ五年ノ中、最高最低ヲ除イタル三年平均主義ヲ採リテ居ル、是等各國ノ先例ヲ見マシテモ、三年平均ハ、固ヨリ當然ト考ヘルノデアリマス、尙ホ此際留意スベキ事柄ハ、所謂非常時局ノ利得ナルモノハ金再禁止後ニ於ケル貨幣價值ノ變動、即チ貨幣ノ購買力ノ減少ヲ最大原因トシテ惹起サレタルモノデアルカラ、金解禁當時ト今日ト直ニ比較シテ其差額ニ課稅スルト云フガ如キハ、純理ノ上カラ申シテモ、大ナル矛盾アリト言ハネバナラナイ、況ヤ基準ノ百分ノ七ト云フガ如キハ、昭和五、六年ノ法人ノ收益ノ率ガ當時百分ノ四乃至五デアルト云フ大藏省ノ會社統計ニ基イタコトデアルガ、抑、此大藏省ノ會社統計ナルモノガ、其作成方法ガ根本的ニ舊式且ツ不備デアル、斯ル根本的ニ舊式不備ナルモノヲ基準ノ基礎トスル

コトハ、甚ダ誤謬ト言ハネバナラナイ、是等ノ缺點ヲ補ハシガ爲ニ、敢テ基準年度ニ昭和四年ヲ加ヘテ三箇年ノ平均ト修正シタル理由デアリマス、第二即チ修正條項ノ第一ハ租税ノ不公平ハ動モスレバ脱税ヲ招ク母デアル、不公平ナル租税ガ國民ノ納税義務心ヲ傷クルガ如キコトアラバ、國民道徳上甚ダ戒メナケレバナラナイ、今回ノ税法ガ動モスレバ起リ勝チナル脱税ノ目的ニ出デントスル將來ノ増資ニ對シテ、新會社ノ場合ト等シク百分ノ七ノ控除ノミヲ認メ以テ不健全ナル増資ヲ制裁セントスル規定ヲ加ヘタノデアリマス、第三ハ本法施行前ニ法人ガ減資ヲ斷行シ、眞面目ナル事業整理ヲ爲シタル法人ヲ保護スル規定ヲ設ケルコトハ、社會正義ノ觀念ノ一端ヲ現シタルニ外ナラズ、第四、第九條第一項及第四項ノ修正ハ第四條第三項ノ修正ニ依ッテ基準ヲ三箇年ニ改メタル爲ニ當然起ル結果デアリマス、第五、第十四條法人利得ヲ其儘トシテ個人ノ利得ヲ特ニ百分ノ七・五ニ引下ゲタル理由ハ、個人ハ法人ニ比シテ概シテ擔税能力ノ弱イモノデアル、而シテ第一、法人ハ増資ニ依ル控除ガアルケレドモ、個人ハ是ガナイ、第二、個人ハ資本金以外自分ノ勤勞ヲ中心トシテ仕事ヲ爲スガ、之ヲ資本金

トシテモ亦報酬トシテモ十分計算サレテ居ラナイ、第三、個人ハ營業上必要ナル各種ノ經費ノ控除ガ十分デナイ、是等個人ニ關スル特殊ノ三理由ニ基キマシテ、各國共ニ個人ノ税率ヲ多少低クスルト云フコトガ寧ロ原則ト思フ、曩ノ我國戰時利得税ガ此點ヲ参照シテ、法人ノ四分ノ三程度ノ低キ税率ニ止メテ居ル、政府ハ、或ハ言ハシ、此點ハ個人ニ關スル免税點及控除金額ノ引上ニ依ッテ多少緩和ヲシテ居ルト、併シ、斯ル免税點及控除金額ノ引上ノミニ依ッテハ其緩和ハ十分ナラザルモノト信ズルガ故デアリマス、第六、附則第二項施行期間ヲ三箇年ト限定シタル理由ハ、斯ノ如キ缺點ノ多キ臨時税ハ元々長ク實施スベキ性質ノモノデナイ、政府モ亦或ハ國策審議會其他ニ掛ケテ、出來得ル限リ速ニ税制ノ根本的修正ヲ施行シタイト斷言シテ居ル以上ハ、斯ル根本的ナル整理ヲ特ニ促進セシメンガ爲ノ必要上カラ此施行ヲ三箇年ト限定シタル理由デアリマス、大要六ツノ修正點ニ付キマシテ、其理由ヲ要約シテ申上ゲマシタ

アリマスガ、私ガ洵ニ殘念ニ思フノハ、此税法ノ缺陷デアリ、痛デモアルト云フ最モ重大ナ點ニ付テ、政友會ノ修正ノ御意見ガ觸レテ居ラス、是ハ洵ニ私ノ殘念ニ思フ所デアリマス、最モ重大ナル缺點、即チ痛トハ何デアアルカト云フト、此税法ニ依リマス所ノ基準年度ニ利益ガ多クアレバ多イ程利得金額ガ少クナッテ、其税金ハ減ッテ行ク、基準年度ニ利益ガ少ケレバ少イ程利得金額ハ殖エテ行ッテ、税金ハ増シテ行クト云フ、所謂租税ノ負擔ノ均衡ト云フ點ヲ打破シテ居ルト云フ點ガ、此臨時利得税法ノ最モ大ナル缺陷デアルト思フ、此點ニ對シマシテ何等ノ斧鉞ヲ加ヘラレテ居ラス、是ハ私ノ最モ遺憾ニ存ズル第一點デアリマス、ソレカラ修正案ノ第一項デアリマスガ、其心持ニ於テハ私共モ全ク同感デアリマス、即チ新ニ増加シタル資本金ニ付テハ七分ニ限定スルト云フ御話デ、脱税防止ト云フ點カラ考ヘマシテモ、又新設會社トノ權衡上カラ考ヘマシテモ、此御精神ハ洵ニ結構デアルト思フノデス、併ナガラ此法文ノ書キ方ガ「臨時利得税脱税ノ目的ニ出デタルモノト認メラルトキハ」斯ウ云フコトヲ御書キニナッテ居ル、其認メルカ認メヌカト云フコトハ、是ハ稅務官吏ノ認定ニ任セル結

果ニナッテ行クノデス、斯ウ云フコトヲヤルト云フコトガ、此租税ニ關スル官民ノ意見ノ疎隔ヲ來ス根本義デアアル、成ベク日本ノ税法ニハ、斯ウ云フ役人ニ一ツノ認定權ヲ持タセルヤウナ税法ヲ作ッテハナラス、サウ云フコトガアルカラ、此官民離間ノ問題、或ハ爭ヒ事トナッテ、常ニ此處カラ紛糾シテ來ル、又役人ト納稅者トノ間ニ於ケル色々ノ弊害モ、斯ウ云フ點カラ生レテ來ルノデアリマス、隨テ日本ノ税法ニハ、成ベク斯ウ云フコトハ除外ヲ致シテ、單刀直入ニ、明確ニ、何等運動トカ情實トカ云フモノ、入ッテ行クコトノナイヤウニシテ行クコトガ、是ハ立法者トシテ大ニ戒心ヲシナケレバナラヌ點デアルト思フ、然ルニ第一ノ修正點ニ依ッテ見マス「臨時利得税脱税ノ目的ニ出デタルモノト認メラルトキハ」トシテアッテ、政府ニ認定權ヲ御任セニナッテ居ル、斯ウ云フコトハ事實上非常ニ困難デス、寧ロ其爲ニ弊害百出ノ憾ナキ能ハズデアリマス、隨テ斯ノ如キハ宜シク全部本法施行後ニ於テ増資シタルモノニ付テハ、其控除ニ付テハ七分ニ限定スルト云フ風ニ、一刀兩斷ニオヤリニナルト云フコトガ、極メテ適切デアルト考ヘマス、隨テ此精神ニハ賛成デアリマスガ、法文ノ書キ方

ノ上カラシテ、御賛成ヲ申ス譯ニ行キマセヌ、第二ノ基準年度ノ問題デアリマス、成程は昭和四年ヲ加ヘタ方實際ニ即スルト云フヤウナ御話ハ、御説御尤モデアルカモ分リマセヌ、併ナガラ一定ノ時ヲ捉ヘテ、ソレヨリ以後ニ儲カッタ者ニハ課税ヲシヨウト云フノニ、餘リ期間ヲ長イ間ヲ基準年度トシテ取ルト云フコトハドウダラウカ、出來ルナラバ私共ハ寧ロハ短カメルト云フノガ至當デハナイカ、或ル一定ノ轉換期ヲ基礎トシテ、ソレカラ儲カッタモノハトスル、ガラ／＼ト長イ期間ヲ取ツテ、ソレト今日ト比較シテ見ルト云フコトハ、所謂此臨時利得税ト云フモノ、性質ニ鑑ミテドウダラウカ、同時ニ此方法ヲ以テ致シマシテモ、先程私ガ第一ニ申上ゲマシタ所ノ其基準年度ニ於ケル所ノ利益ガ大デアレバアル程負擔ガ輕クナル、基準年度ニ於ケル利益ガ小デアレバアル程負擔ガ重クナルト云フ缺點ヲ、之ニ依ッテ除クコトガ出來ナイ、矢張依然トシテ其缺點ハ繫ッテ來テ居ルノデアリマスカラ、眞向カラ反對スル譯デモアリマセヌガ、臨時利得税ノ精神ニ鑑ミテ二年デ宜イデヤナイカ、斯ウ云フ考ヲ私共ハ有ッテ居リマス、ソレカラ第三項ノ昭和七年一月一日以後ニ、本法施行

迄ニ減資ヲシタルモノニ付テハ、其減資ハ之ヲ減資シタモノト看做サナイデ、減資前ノ資本金額ニ依ッテ計算セラレルト云フ御説デアリマス、是ハ税法ノ施行上尙ニ妙ヲ得タヤウナ事柄デハアリマスケレドモ、私ハ是ハ税法ヲ組立ツル上ニ於テ、餘程考ヘナケレバナラヌ問題デヤナイカと思フ、詰リ之ヲ端的ニ言ヒマスト云フト、無イ資本ヲ有ルトシテヤルト云フコトニナッテ居リマス、サウスルト云フト、無イ資本ヲ有ルトシテ計算スルト云フ理窟ガ立ツナラバ、有ル資本ヲ無イトシテ計算スルコトモ理窟ガ立チ得ル、即チ臨時利得税法ノ施行ヲ豫想シテ、既ニ増資ヲシテ居タヤウナモノニ付テハ、是ハ其増資サレタモノハ幽靈ノ増資デアルト云フ理由デ以テ、是ハ拂込ハシナカッタモノト認メテ行クノガ當リ前デアル、一方ノ資本ヲ減少シタモノダケ膨ラカシテ見テヤルト云フナラバ、膨ラカシタモノヲ減ラシテ見テヤルト云フコトハ當リ前ノ話デナクテハナラヌ、併シサウ云フコトヲ日本ノ税法ノ上ニ立テルト云フコトハ餘程考ヘナケレバナラヌ、税法ト云フモノハ、事實ヲ基礎トシテ實際ノ問題ニ向ッテ薦ラニ行ッテ、始メテ其不公平ナコトガナクナルノデス、事實ニ對スル所ノ確ナル認識ヲ以

テ、之ニ當嵌ムル法律ヲビシヤット型ニ嵌メテ行ッテ、始メテ其處ニ一定ノ秩序ガアリ、統制ノ取レタ所ノ課税ガ出來ル、ソレヲ無イモノヲ有ルモノト認メルト云フコトニナラバ、有ルモノヲ無イモノト認メネバナラヌデヤナイカト云フ議論モ出テ來ル、サウ云フ豆腐ノヤウナ固マラナイ、時ニ依ッテアツチコッチ動クヤウナ税法ト云フモノハ、是ハ獨リ臨時利得税ダケデハナイ、總テノ税法ニ付テ餘程考ヘテ行カナケレバナラヌ點デアル、勿論此修正條項ヲ設ケラレマシタル動機及御心持ニハ私共モ賛成デアリマスケレドモ、税法ヲ法律トシテ之ヲ施行シテ行クト云フ立場カラ考ヘタ場合ニハ、其理想ト云フモノガ全部達セラレルト云フ譯ニハ行カヌ、唯減資シタモノハ是非非常ニ負擔ガ重クナルカラ助ケテヤラウト云フコトヲ考ヘタナラバ、増資シタモノハ今言ッタヤウニ、モウ少シ減ラシテ負擔ヲ重クシテヤラウ、斯ウ云フヤウニ増シタリ減シタリスルヤウナ餘地ヲ殘スト云フコトハ、餘程總テノ税法ヲ通ジテ考ヘナケレバナラヌ點デアルト思フ、斯ウ云フ點カラ致シマシテ、私ハ此犧牲ハ已ムヲ得ナイノデヤナカト云フ意味デ御賛成致シ兼ねルノデアリマス、ソレカラ第四ノ問題ハ、是モ御心持

ノアル所ニハ私モ洵ニ同感ノ點ガ多イノデス、多イノデアリマスケレドモ、是ハ先程申シマシタヤウニ、本税ノ最モ痛デアル所ハ、法人ノ利得モ個人ノ利得モ一率ニシテヤルト云フ點デアル、私ヲシテ言ハシムルナラバ、基準年度ニ於ケル所ノ利益ガ大ナルモノハソレダケ利得金額ガ非常ニ少クナルノデアアルカラシテ、其負擔能力ハ多イト言ハナケレバナラヌ、多イモノニ對シテハ税率ヲ加減シテ、多イ税率ノ税金ヲ課ケル、負擔能力ノ小サイモノニ對シテハ所謂基準年度ニ於テ利益ノ少カッタモノニ對シテハ利得金額ガ多クナルノデアリマスカラ、負擔能力ガ弱イ、隨テ之ヲ區別致シテ、法人モ個人モ共ニ基準年度ノ利益如何ヲ基礎ト致シマシテ、税率ニ等差ヲ設ケテ行ク、斯ウ云フコトニ依ッテ行クコトガ、此臨時利得税法ノ一大痛デアル所ノ負擔ノ不權衡ヲ矯正シテ行ク所以デアルト考ヘテ居リマス、唯法人ト個人トヲ分ケテ、比例税率ヲ異ラシメテ適用スルダケデハ其眼目ヲ達スル譯ニ行カヌ、斯ウ云フ點カラ致シマシテ此點ニ對シテハモウ一步突込シダ考ヲ私ハ有ッテ居ルノデアリマス、附則ノ第六ニ付キマシテハ、是ハ異議ハアリマセヌ、附帶決議其モノニ付キマシテモ、洵ニ賛成デア

リマス

ソコ私共ハ茲ニ修正案トシテ提案致シ
タイト思フノデアリマス、即チ政府提出ノ
臨時利得税ノ第四條第二項第三號ヲ改メマ
シテ、是ハ前ノ方ハ政府提出案ト同ジデア
リマスガ、但シト云フ所、「但シ本法施行後
ニ増加シタル資本金額中法人ノ積立金ヲ以
テシタル部分ヲ除キタル金額ニ對スル平均
利益ハ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル
金額ニ依ルモノトス」即チ新設會社ト同様
ニ施行後ニ増加シタル資本金額ニ付テハ、
負擔基準年度ノ利廻如何ヲ問ハズ總テ七分
ニ限定シテ行ッテ、一方ニ於テ是ニ依ッテ脱
税ヲ企テル者ヲ防止スルト共ニ、一面ニ於
キマシテハ今ノ新設會社ニ對スル割合モ七
分ニナッテ居ルト云フ事柄トノ權衡ヲ計ッテ
行ク、斯ウスルコトハ極メテ妥當デアルト
考ヘマスノデ、此修正案ヲ一ツ出スノデア
リマス

次ニハ税率ノ問題デアリマス、即チ第十
四條ニ依リマス、法人個人共ニ百分ノ十
ト云フコトニナッテ居リマスガ、先程申シマ
シタ通り基準年度ノ利益ノ如何ヲ問ハズ、
總テ之ヲ一率ニ百分ノ十トセラレテ居ル所
ニ利得金額計算上生ズル所ノ負擔ノ不權衡
ト税率ノ上カラ來ル所ノ負擔ノ不權衡ト兩

方二重ノ不權衡ヲ來シテ居ル、隨テ私共ハ

計算ノ方法ハ或ル年度ヲ基準ニ取ッテ、其後
儲ケタモノニ課税ヲスルノデアルカラ、是
ハ已ムヲ得ナイ、是ハ防ギヤウガナイ、政
友會ノ修正案ノヤウニ四年ヲ加ヘテ計算シ
テ見テモ、ヤハリ基準年度ノ利益ノ多カッタ
モノ、負擔ガ輕クナリ、少カッタモノ、負擔
ガ重クナルト云フコトハ、是ハ當然ノ歸結
デアリマスカラ、税率ヲ區別シテヤッテヤラ
ウ、即チ基準年度ニ於ケル所ノ平均利益ノ
割合ガ百分ノ七デ利得金額ヲ計算シタモノ
即チ缺損ノ場合モ是ニハ入リマス、サウ云
フモノニハ百分ノ七・五ノ税率ヲ適用シ、基
準年度ノ利益ガ百分ノ七ヲ超ヘテ百分ノ十
以內ノ割合デ計算シタルモノニ付テハ百分
ノ十ノ税率ヲ適用スル、又基準年度ノ平均
利益ガ一割ヲ超エテ二割ニ割モアッタナラ
バ、サウ云フ法人ニ付キマシテハ百分ノ十
二ノ税率ヲ適用スル、即チ基準年度ノ利益
ノ如何ニ依ッテ税率ニ差等ヲ設ケテ適用ス
ル、個人ニ付キマシテハ其利益ガ昭和六年
以前二年ノ平均利益ガ六千圓以下デアッタ
ラ、今ハ幾ラアッテモ是ハ構ヒマセヌ、今ノ
利得金額ノ大小デ率ヲ區別シテ行カウト云
フノデハナイ、政府ノ御答辯ニモアリマシ
タ通り、或ハ個人ノ所得税或ハ法人ノ超過

所得ト云フモノハ、現在既ニ累進ニナッテ居

ル、ソレヲ累進ニスルコトハト云フヤウナ
意味ガアリマシタガ、私ノ言フノハ累進税
率デハナイ、詰リ二年間ノ平均年度ノ利益
ガ六千圓アッタカナカッタト云フコトガ、此
税率ヲ區別スル基準點デス、隨テ此二箇年
間ノ平均利益ガ六千圓以下ノモノ、サウ云
フモノニ付テハ百分ノ七・五、又其利益ガ昭
和六年以前二年間ノ平均利益ガ六千圓ヲ超
エテ一萬圓以下デアッタモノニ付テハ、其人
ノ利得税ニ付テハ百分ノ十ノ税率、又其利
益ガ昭和六年以前二年ノ平均利益ガ一萬圓
ヲ超エテ二萬モ三萬モ既ニアッタト云フヤ
ウナ人ハ、ソレダケノ金ヲ今度控除シテ貰
フノデスカラ、残りハ少シバカリニナッテシ
マッテ、其擔稅力ハ稍強イト言ハナケレバ
ナラス、此意味ニ於キマシテ三段ニ區別シ
テ所謂一萬圓ヲ超過シタル人ニ對シテハ百
分ノ十二ノ税率ヲ適用スル、斯ウ云フコト
ニシテ、初メテ本法ノ負擔ノ均衡ヲ破ッ
テ居ルト云フ點ヲ幾ラカデモ補ヒ得ル、若
シ之ヲ計算上ノ方法デ補ヒ得ルト云フ方法
ガアリマシタナラバ、ソレハ洵ニ仕合セデ
アリマスガ、ナケレバ是ハ已ムヲ得ナイ、
或ル一點ヲ基準トシテ、ソレカラ以後儲カッ
タモノハ取ラウト云フノデスカラ、ドウモ

計算上ニ依ッテ負擔ノ公正ヲ圖ッテ行クト云

フヤウナ譯ニハ行カナイ、行カナイナラバ
セメテモノ方法トシテ、最後の手段トシテ
税率ノ變更ニ依ッテ之ヲ補フト云フ行キ方
ヲシテ行クヨリ外ニ方法ハナイト思ヒマ
ス、隨テ以上ノ理由ニ依リマシテ、只今申
述ベタ通りノ修正案ヲ提出致シタ次第デア
リマス

○岡田委員長 龜井君

○龜井委員 只今委員會ニ二箇ノ修正動議
ガ提出セラレテ居ルノデアリマス、政友會
ノ修正ニ關シマシテハ、十分御苦心ノ存ス
ルコトハ委員トシテ深く諒ト致スノデアリ
マスシ、又國民同盟ノ修正ニ關シマシテモ、
其税率ヲ變ヘテ行クト云フ所ノ御趣意ニ付
テハ極メテ贊意ヲ表シ得ルモノナノデアリ
マス、併ナガラ私ハ今ノ情勢ノ下ニ於テハ、
甚ダ不満足デハゴザイマスルケレドモ、政
府原案ニ修正ヲ加ヘズシテ之ヲ通過セシム
ルコトガ宜シイト考ヘテ居リマス、固ヨリ
此法案ニ付キマシテハ非常ニ政府ヲ責ムベ
キ點ハ、第一ガ所謂立法ノ考ヘ方ノ不鮮明
ト云フコトデアリマシテ、是ガ一ツノ收入
ヲ目的トシタ、財政ノ「バランス」ヲ目的
トシタモノデアアルヤノ誤解モ抱カセルノデア
リマスシ、又サウデナクシテ、一ツノ社會

政策的立法デアリヤニモ解釋ヲセラレルノデアリマス、更ニ進ンデ臨時利得税ノ性質ニ關シマシテモ、此臨時利得税ナルモノガ、全租税體系ノ重要ナル一部分トシテ恆久性ヲ有セシメルヤウニモ——恆久性ト申シマシテモ、固ヨリ永遠ト云フ意味デハアリマセヌガ、相當年度ノ繼續性ヲ有セセル一ツノ租税體系ノ重要ナル一部トシテ提案セラレタカトモ考ヘラレマスシ、一方ニ於キマシテハ主税局長ノ御答辯ニアリマシタヤウニ、三年デ廢メルカモ知レナイ、四・五年デ廢メルカモ知レナイ、イヤ、モット早く廢メルカモ知レナイ、要スルニ何時早クオ廢メニナルカモ分ラナイ、此政府御提案ノ理由ノ本旨ノ不明瞭ナル所ニ各種修正案ガ自ラ發生シテ來ル原因ガアルト考ヘルノデアリマス、同時ニ此臨時利得税ト政府ノ公債政策ノ將來ト云フコトヲ考ヘテ見マスレバ、是ハ甚ダ不安心、或ハ或ル意味ニ於テハ甚ダ懸念ニ堪ヘザルモノガアルノハ洵ニ事實デアリマス、ノミナラズ臨時利得税ノ立法其モノニ付キマシテモ、吾々カラ申シマスルナラバ、臨時ノ名ノ中ニ所謂産業ノ利益ト云フ觀點カラノ今日御立案ニナルベキモノデナクシテ、利益ノ原因ガ現下ノ景氣ニ於テハ色々アルノデアリマスルガ、其中デ吾々

ヲシテ言ハシムルナラバ、今日銀行其他ノ貸付資本ニ現レテ居リマスル所ノ國民ノ貸付資本ノ増加ト云フコトモ、一般的ナル擴大再生産ノ過程ヲ通ジテノ貸付資本ノ増加デハゴザイマセヌノデ、所謂一般のナ財界ノ流通過程全體ノ膨脹ニ依ル利益ノ増加ト考ヘラレマセヌデ、軍需工業等、即チ軍需品等、流通過程カラ餘所ニ持ッテ行ッテシマハレマシテ、廢棄セラレルモノニ對スル利潤ガ積立テラレテ居ルト云フコトモ考ヘラレ、又一方今日ノ貿易ノ情勢ト云フモノガ、金額等ハ別ト致シマシテ、數量ヲ考ヘマシテモ、一種ノ品物ノ廢棄ニ依ッテ出テ居ルト云フ風ナ點モ考ヘルノデアリマスガ、其臨時利得税ト合セテ獨占ニ依ッテ價格ヲ釣上ゲテ參リマスル、サウ云フ利益、サウ云フ獨占資本ト云フモノニ對シテモ、臨時利得ノ最モ顯著ナル一ツデアルト考ヘマスルガ故ニ、御立法ニ相成ラナケレバナラヌ程ノモノデアルト考ヘルモノデアリマス、併ナガラ只今ノ政友會ノ御修正ノ御趣意ハ、洵ニ御苦心ノ存スル所デアルコトハ深く諒ト致スノデゴザイマスガ、第一ニ基準年度ヲ二年ヲ三年ニ爲サレマシタコトハ、現下ノ景氣ニ依ッテ發生致シマシタル利益ト云フモノガ一種ノ「デフレーション」ノ過程

カラ發生シタモノト考ヘマスナラバ、矢張其處ニ「デフレーション」時代ニ基準ヲ置イテ御覽ニナリマシタ方ガ理論的ニ一貫スルノデアリマシテ、ソコデ初メテ本案ヲ三年ニ限ルト云フコトガ活キテ來ルト思フノデアリマス、然ルニ四年ヲ入レルト云フコトニナリマス、四、五、六ト云フコトニナリマス、所謂「デフレーション」時代バカリデモナク、其前ノ時代ヲ含ンデノ一種ノ平均利益ト云フモノガ基準ニナルノデアリマスカラ、本法案ハ早く廢メルト云フ特殊ノ意思表示ノアラザル限りハ、私共ノ考デハ其論理ノ當然ノ過程ト致シマシテハ、三年トシナイデ當分ノ間トシテ置イタ方ガ宜イノデハナイカ、三年ニスルナラバ、當分ノ間ト爲サデ御置キニナッタ方ガ宜イノデハナイカト云フ風ナ考ヘ方モ致シマス、ソレカラ個人ノ稅率ヲ御下ゲニナリマシタ點ニ付キマシテハ、法人ト個人ハ成程此臨時利益稅ニ付テハ一律一割ト云フコトニナッテ居ルヤウニ見エマスガ、併ナガラ法人ニ對シマシテハ、超過所得稅モアルノデアリマスカラ、自ラ其處デ個人ト云フモノモ、固ヨリ徹底的ナル負擔ノ衡平ト云フコトヲ御考ニナリマスレバ、是ハ別問題ト致シマシテ、臨時ノ所得ト云フ風ナ考カラ

申シマスレバ、吾々ハ矢張是ハ一律一割ニシテ置イテ宜イノデハナイカ、更ニ資本ノ増減ニ對シマシテハ、只今中村君ガ仰セラレタ通りデアリマシテ、是ハ繰返シマセヌ、附加稅ニ關シマシテハ、成程是ハ一種ノ稅收入ノ減少ト云フ恰好ニ見エルノデアリマスガ、是ハ矢張一ツノ概念上ノ收入ノ減少ナノデアリマシテ、此點ニ付テハ吾々ハ一通リ是デ宜イノデハナイカ、附帶決議ニ付キマシテハ、是ハ色々經濟上ノ議論、觀點ノ違ヒデアリマスルカラ、此處デハ詳シク申上ゲマセヌデ、尙ホ本會議等デ申上ゲタイト思ヒマスルガ、要スルニ政府ノ原案ノ趣旨ガ不明デアルト思フ、之ヲ多少永續サセテ考ヘル、サウシテ全體ノ稅制體系ノ一ツトシテ入レルトスレバ、茲ニ各種ノ修正案ガ出テ來ルノハ或ハ當然デアルト考ヘルノデアリマスガ、私ハ今日ノ情勢カラ、稅制ハ根本的ニドウシテモ變ラナケレバナナイ時代ニ入ッテ居ル、サウシテ茲ニ臨時ノ利得ト云フモノダケヲ考ヘルナラバ、寧ロサウ云フ臨時稅のモノハ餘リ複雑ニシナイデ、所謂非常ニ嚴密ナ負擔均衡ノ原則ニ依ラズトモ、一ツノ率デ押ヘテ行ッテ、他日之ヲ、戰時利得稅ヲ變更シタ如ク、根本的ノ稅制案理ノ時ニ考フベキモノデアル、斯

様ナ理由ニ依リマシテ、修正案ニ對シテハ反對ヲサセテ裁キマシテ原案デ一應通スコトヲ正シト考ヘル次第デアリマス

○前田委員 此場合簡單ニ政友會ノ修正動議ニ對スル政府ノ所見ヲ伺ヒマス、政友會

修正案ノ第一項ノ資本金増加ノ場合ニ於ケル修正ノ御趣旨ハ吾々諒ト致シマス、併ナガラ資本金増加ノ場合ニ於キマシテ、増加資本額ノ目的ガ臨時利得稅ノ連脱ノ目的デアリヤ、或ハ事業發達上必要ナル爲メノ資本増加デアルカ、此見解ハ實際問題トシテ極メテ困難デアラウト思ヒマス、苟モ徵稅技術上困難ナル問題ヲ立法化スト云フコトハ、如何カト思フデアリマスガ、此點ニ付キマシテ、此修正案ヲ立法化シテモ、政府ハ御認メニナルカドウカ、此點ニ付キ政府ノ御所見ヲ伺ヒマス

○石渡政府委員 斯ウ云フ立法ニ付キマシテノ前例ハゴザイマス、例ヘバ同族會社ノ

行爲ヲ、租稅連脱ノ意思ト云フコトヲ認メタ場合ニ否認スルトカシナイトカト云フコトハ致シテ居リマス、隨ヒマシテ、サウ云フ程度ノ認定ヲ全然出來ナイトハ申上ゲマセヌ、併ナガラ此認定ニ付キマシテ相當議論ノアリマスコトハ、只今中村サンノ仰ッヤッタ通りデゴザイマス、是ハ各々見方ニ依ッ

テ意見ノ立テ方モ變ルト思フノデアリマス、松村サンノ御述ベニナリマシタ修正案中ノ増資ノ場合ニ於テ、政府ハサウ云フコトガ出來ルヤ否ヤト云フ御尋ニ付キマシテハ、前例ヲ申上ゲマシテ、此場合ノコトハ政府ト致シマシテハ篤ト考慮シテ見ルト申上ゲル外仕方ガナイカト思ヒマス

○中村委員 今石渡サンノ御話ノ、同族會社ノ行爲ヲ否認スル規定ガアルト云フ話ハ、

其通りデアリマス、ソレデ現在ニ於テモ、其規定ヲ適用シテ同族會社等ニ於テ要ラザル増資ヲシタト認メタ場合、又假裝ノ増資ナリト認メタ場合ニ於テハ、資本金ノ拂込ヲ現在否認シテ居ル、其規定ヲ適用シテ行クト云フコトニナレバ、今ノ政友會ノ修正案其モノハ要ラナイコトニナル、斯ウ云フ考ヲ有チマスガ、政府ノ御所見ハ如何デスカ

○石渡政府委員 只今中村サンノ御尋デアリマスルガ、會社ノ行爲ヲ否認スルト申スコトハ、今普通ニ扱ッテ居ルコトハ、詰リ會社ガ實際増資ヲ致サナイモノヲ致シタカノ

如キ計算ヲ致シテ來ル、サウ云フ場合ニ於キマシテ、只今ノ現行法ノ條文ヲ以テ之ヲ否認致シマス、併ナガラ現實ニ資本ノ増加ガアッタ場合ニハ、只今ノ所得稅法七十三條

ノ二ノ條文デハ之ヲ否認スルコトハムヅカシト思ヒマス

○前田委員 修正案第二項デアリマスガ、

基準年度ヲ四年、五年、六年ニ變更致シマス結果、恐ラクハ政府ノ御調査モ吾々ノ調査モ同ジデアラウト思ヒマスガ、此場合特ニ御言明ヲ得タイ爲ニ御同致シマスガ、多分百二十萬圓程稅額ガ減少スルト考ヘマスガ、左様ニ考ヘテ宜シウゴザイマス

○石渡政府委員 只今正式ニ計算致シマシ

タ數字ノ持合セガゴザイマセヌガ、大體ニ於テ其程度ノ數字デアッタト思ハレマス

○前田委員 修正案ノ第三項デアリマスル

ガ、昭和七年一月一日以後資本金ヲ減少シタト云フ會社ハ殆ド無イト思フノデアリマス、昭和七年以後ハ景氣ガ恢復致シテ居リマスガ爲ニ、大抵資本金ヲ増加致シテ居ルガ、減少致シタモノハ極ク少イト思ヒマスガ、此法人ノ減少シタル資本金額ハ、大體何分デアルカ御調査ニナッテ居ルカドウカ、御知ラセテ願ヒマス

○石渡政府委員 調査シタモノヲ持合セテ

居リマセヌ

○前田委員 後カラ一ツ御示シテ願ヒタイ

ト思ヒマス、ソレカラ五ノ修正案デゴザイマスガ、個人ノ利得金ヲ百分ノ七・五ニ修

正サレタ結果ト致シマシテ、是モ恐ラク吾吾ノ見積ト同ジデアラウト思ヒマスガ、稅額ニ於テ約百三十萬圓程減少スルモノト認メテ宜シウゴザイマス

○石渡政府委員 是ハ個人ノ稅額ヲ先般表

ニ致シテ差上ゲテゴザイマス、是カラ二分五厘ダケ御引キ下サレバ數字ハ出ルト思ヒマス、百三十五萬何千圓カト思ッテ居リマス、但シ只今ノ修正ヲ通ジマシテノ數字、即チ昭和四年、五年、六年ノ三箇年ヲ基準トシテヤル、ソレト個人ノ稅率ノ減少、此兩方ノ修正ガ同時ニ行ハレマスカラ、ソコニ幾分ノ差異ガ出來ルト存ジマス

○前田委員 私ハ最後ニ大藏大臣ニ御尋申

上ゲタイト思ヒマス、只今提出サレマシタ政友會ノ修正案竝ニ國民同盟ノ修正案ニ對シマシテ、政府ハ同意ナサル御所信デアリマスガ、或ハ不同意ノ御所信デアリマスガ、此場合政府ヲ代表シテ御所見ヲ承リタイト思ヒマス

○高橋國務大臣 不同意デアリマス

○前田委員 私ハ是デ終リマス

○松村委員 極メテ簡單ニ提案ノ要領ヲ追加シテ置キタイ、中村君ノ意見ニ御答スルノデアリマセヌガ、中村君ノ意見ト吾々ノ考ハ根本的ニ相違ガアル、ソレハ中村君

ノ意見ノヤウニスルニハ所得稅ヲ根本的ニ直サナケレバソレハ出來ナイコトデアッデ、詰リ累進稅ノ規定ヲ設ケルト云フコトハ、所得稅ノ根幹ヲ直サナイ限りハ、本法ノ稅率ノミヲ直シタダケデハ是ハ出來ナイノデアリマス、隨テ根本的ニ最初ノ出發ガ違フノデ、中村君ノ縷々述べラレマシタ御意見ニ依レバ專ラ負擔力ノ點ニノミ重點ヲ置カレテ論ゼラレテ居リマス、ソレハ租稅ノ全般ノ問題デアッデ、吾々ガ本案ノ修正ヲナサウト云フ趣旨ハ、單純ナル負擔力ノ點ノミヲ考慮シテ居ルノデナイノデ、其點ハ非常ニ根本的ニ意見ノ相違ガアルト思フ、次ニ龜井君ハ餘リ複雑ナ修正ハシナイ方ガ宜イト言ハレマシタガ、是ハ根本的ノ意見ノ相違デアッデ、苟モ立法議會ガ、政府ノ出シタモノデアルカラト云フテ、缺點アルモノヲ其儘ニ默認スルト云フナラバ、議會ノ存立ノ必要ハナイト思フノデアリマス、次ニ只今政府委員カラ、此修正ノ結果多少ノ減收、百二十三十萬圓見當ノ減收ト云フヤウナ御意見ガアリマシタガ、是ハ吾々ト政府ト此收稅ノ見込ニ付キ徹底的ニ計算調査ヲ異ニシテ居ル、吾々ノ見積リニ依レバ、斷ジテ收入見積リニ缺陷ヲ生ゼザルノミナラズ、寧ロ著シキ增收アリト思フノデアリマス、其理

由ハ、第一政府ガ基本トシテ示サレタル五億三千萬圓、吾々ノ調査デハ是ヨリ遙ニ大キイ數字デアル、又三割増ト漫然認メラレテ居ルガ、此三割ト云フ政府ノ見込モ非常ニ吾々ノ見解ト相違シテ居ルノデアル、吾々ハ少クトモ三割五分以上ノ最低減度ノ增收見込ヲ立テ、居ル、又個人ノ場合ニ於テ、政府ハ僅ニ從來ノ調査ヲ基礎トシテ五分増ト見テ居ル、僅ニ五分増ノ理由ハ、阪神地方ニ於ケル災害ガアツカラ、法人ハ三割増ト認メナガラ、個人ハ僅ニ五分シカ認メテ居ラナイ、法人ト個人ノ間ニ斯ノ如キ増加收入見込ガ不徹底デアル、法人ヲ三割認メルナラバ個人モ三割、少クトモ二割ヲ認メナケレバナラヌ、若シ二割ヲ認メルナラバ、我黨ノ修正案ニ付キマシテモ個人ニ就デハ極メテ僅カノ收入減ニシカナナイ、他方ニ法人ニ於テ三割五分ノ增收ヲ見込ムナラバ、茲ニ平年度ニ於テ二百六十五萬圓、初年度ニ於テ百八十六萬圓ノ增收トナリ、個人ノ方ハ二割増ニ致シマスレバ僅ニ二十數萬圓ノ減收ニ外ナラヌ、吾々ハ政府ノ見ル所ト此收稅ノ見込ニ付テ、徹底的ニ意見ノ相違アリ、斷ジテ減收ニナラヌト云フコトヲ簡單ニ申上ゲテ置キマス

○龜井委員 只今松村サンカラ大變大キナ聲デ叱ラレマシタガ、政府ノ出シタモノデカラ單純ニ同意シタラ宜イデヤナイカト云フ議論ハ一向致シテ居リマセヌ、全體トシテ稅制ノ中ニ稍、恆久的性質ヲ有スルモノニ付テハ、全般的ノ建前カラ統一的ニ考慮シテ行カナケレバナラヌガ、戰時利得稅、或ハ臨時利得稅等ノ如キモノハ、存外單純ナル立法ヲ進ムト云フ原則ヲ支持シテ居ルダケデゴザイマスカラ、立法院ノ權能ヲ拋棄スルト云フヤウナ考ハ毛頭持ッテ居リマセヌ、此點ヲ申上ゲテ一身上ノ辯明ト致シマス

○中村委員 松村君ハ少シ誤解シテ居ルノデヤナイカト私ハ思フ、詰リ法人所得個人所得ヲ通ジテ、一般所得稅法ヲ改正ラセヌト私ノ言ウタ議論ハ行ハレヌデヤナイカト言ハレルガ、ソレハ違フ、詰リ私ノ言フハ、利得金額ノ大小ニ拘ラズ累進稅率ヲ適用セヨト云フノデヤナイ、詰リ平年度ノ五年六年ノ平均所得ノ多イモノト少イモノトハ、ソレニ依ッテ彈キ出サレタル金額ガ大デアルト小デアルトニ依ッテ區別シテ、稅率ヲ別ニシテ適用セヨト言フノデアリマス、數字のニ言フナラバ、例ヘバ三割儲ケテ居タ會社ガアル、三割ヲ今度ハ引キマス、三割ヲ引キマスカラ、百萬圓ノ資本金デ三十五萬圓儲テ居ルモノハ五萬圓シカ殘ラヌト云フ場合ガアル、所ガ同ジ百萬圓ノ資本金デ十二萬圓シカ儲ケテ居ラヌ、是ハ平均利益ハナイ缺損會社デアルトスル、サウスレバ七分シカ引カレヌカラ、七萬圓シカ引カレナイ、故ニ殘リハ五萬圓ト五萬圓デ、利得金額ハドチラモ同ジダ、同ジダケレドモ一方ハ三十萬圓引イタ殘リノ五萬圓、一方ハ僅ニ七萬圓シカ引カナイ所ノ五萬圓、ドッチガ負擔能力ガ多イカト云フト、餘計引イタ方ガ負擔能力ガ多イノダ、斯ウ云フ場合ハ稅率ヲ區別シテ適用シナケレバナラヌデヤナイカ、臨時利得稅モ租稅デアル以上ハ負擔均衡ト云フコトヲ眼目トシナケレバナラヌデヤナイカ、斯ウ云フノデアリマスカラ、所得稅ノ累進率ヲ改正シナケレバ私ノ議論ハ行ハレヌト云フヤウナコトハナイ、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居リマスカラ、ドウカ一ツ誤解ノナイヤウニ御願シマス

○岡田委員長 是デ討論ハ終結シマシタ、今申出ガアリマシタカラ申上ゲテ置キマスガ、政友會ノ修正案ノ中、第一項「行目ニ「本法施行後資本金額ニ増加アリタル」トアルノデアリマスガ、ソレヲ或ハ讀ム時ニ、「増減」ト讀ンダカモ知レヌ、若シサウ讀ンデ居レハ間違デアッデ、「増加」デア

ルト云フ申出ガアリマシタカラ、ソレヲ速
記録ニ留メテ置キマス

○岡田委員 吾々ノ本件ニ對シマスル態度
竝ニ意見ニ付キマシテハ、此際之ヲ留保致
シマシテ、何レ本會議ニ於キマシテ詳細申
述ブルコトニ致シタイト思ヒマス

○岡田委員長 是ヨリ採決ニ入リマス、採
決ノ順序ヲ先ニ申シマス、先以テ昭和十年
度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行
ニ關スル法律案、次ニ昭和七年法律第一號
中改正法律案、次ニ日本銀行納付金法中改
正法律案、此三件ヲ先以テ一括シテ採決ニ
付シマス、此三件ニ御賛成ノ方ハ起立ヲ願
ヒマス

〔贊成者 起立〕

○岡田委員長 總員起立——次ニ臨時利得
稅法案ヲ議題ニ供シマス、其採決ノ順序ハ、
先以テ國民同盟ノ中村君ノ提案ニ係ル修正
案ヲ付議致シマス、之ニ賛成ノ方ハ起立ヲ
願ヒマス

〔贊成者 起立〕

○岡田委員長 起立二名、少數、此案ハ否
決サレマシタ——次ニ政友會ノ松村君提案
ノ修正案之ニ付テ採決ヲ致シマス、此修正
案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者 起立〕

○岡田委員長 起立多數、隨テ此修正動議
ハ成立致シマシタ、先程宣告ヲ落シマシタ
ガ、附帶決議ハ後デ付議致シマス、今ノハ
條文ニ付テノ話デアリマス——次ニ松村君
提出ノ修正部分ヲ除イタル原案ニ付テ決ヲ
採リマス、此原案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求
メマス

〔贊成者 起立〕

○岡田委員長 起立多數——次ニ松村君提
案ノ附帶決議ニ付テ採決ヲ致シマス、賛成
ノ方ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者 起立〕

○岡田委員長 起立多數——仍テ本委員會
付議ノ議案ハ全部終了致シマシタ、尙ホ申
シテ置キマスガ、本案修正決議ノ結果、整
理ヲ要スルモノアルトキハ之ヲ委員長ニ御
一任ヲ願ヒタイノデアリマス、御異議アリ
マセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○岡田委員長 ソレデハ左様ニ計ヒマス、
是ニテ本委員會ノ議事ハ終了致シマシタ、
諸君ノ御骨折ニ對シマシテ感謝致シマス
(拍手)

午後二時五十三分散會

昭和十年三月十一日印刷

昭和十年三月十二日發行

衆議院事務局

印刷者 常磐印刷株式會社